

「スポーツフェスタ 2022」に向けて

秋になり、学校の前庭の^{なつめ} 榎の木が今年は良く実り、日本のものより実も大きく美味です。この木は、118 年前の日露戦争の際、乃木大将が中国旅順の水師営から持ち帰られた木の孫の木です。本校に来られましたら、ちょっと目を留め、楽しんでください。

平素は、聖母の小さな学校の教育に格別のご支援をいただき、深く感謝いたしております。さて、今月には、本校の最大行事である「スポーツフェスタ 2022」があります。体育祭のようなものですが、聖母に通う不登校の生徒を暖かく包み込む「集い」です。生徒たちは自分が学校に行けなくなって「他の皆が当たり前に行っている学校に行けないのは、私が悪いに決まっている。罪悪感を感じる」と言います。「自分が悪い、人に迷惑をかけている、どうすることもできない自分の無力さに際限なく落ち込み、何もする気が出ない」と言います。「自分なんかいない方がいい」と言います。また、ある生徒は、「他の人は普通に行っている。自分も行っていない。取り残される。どう頑張っても同じにならない。自分の将来はないに等しい。もうダメだ。」と自分を閉ざしてしまい、孤立して死にたくなるような日々を過ごすことになります。そんな状態の生徒に対して、スポーツフェスタの応援に来てくださる方は、ゆったりとした笑顔で「そのままでもいいよ、君は一生懸命頑張っているじゃないか。君を見ていてそのことが分かる。」と言われます。生徒をありのままに受け止め、認める人々がそこにいて、子どもたちを支えます。「こうあるべきだ」「こうでなければならない」という判断的見地からでなく、「理解しよう」「共に生きよう」という共に生きるまなざしを持った人々です。心の目で、人間や教育を見るまなざしを持った人々です。そして、生徒に「皆さんが悩む時に一緒に悩み、くじけそうな時は励まし、支え、楽しい時には一緒に笑い、成長を見守るから」と、優しく語りかけます。こういう人々の存在は、聖母の生徒や保護者だけでなく、多くの不登校の子どもたちにとって力強く、大きな励みになります。「裁かれる」のではなく「共に生きよう」と言われる時、深い暗闇の底に居る者の心に灯りが灯ります。

今、生徒たちは一生懸命、スポーツフェスタの準備をしています。当日、参加できるかどうかは分かりませんが、その日、その日を丁寧に積み重ねています。そのプロセスを通してスポーツフェスタを経験した生徒は皆、スポーツフェスタが「暖かった。良かった。」と言います。自分を少しずつ受け止められるように支えてゆきたいと思います。どうぞ、10 月 8 日（土）の「スポーツフェスタ」にお越しくださり、生徒たちを応援してくださいませよう、お願いいたします。

<今月の主な行事>

8 日（土）「スポーツフェスタ 2022」
11 日（火）代休（スポーツフェスタ予備日）
12 日（水）代休
13 日（木）・20 日（木）ウズベキスタン学習
14 日（金）・28 日（金）理科（中岡先生）
17 日（月）華道教室（山中先生）

18 日（火）お楽しみ遠足
19 日（水）・27 日（木）ギター教室（北浦先生）
21 日（金）ボランティア
25 日（火）釣り大会
26 日（水）体育（渡邊先生）
28 日（金）月例保護者会 19:00～